

2018年8月30日

マツダ株式会社

平成 30 年 7 月豪雨にともなう 9 月以降の工場操業について

平成 30 年 7 月豪雨により、被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げます。

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、災害発生以来、地域の皆さまやお取引先さまなどと連携しながら、地域の安全や交通状況などに配慮した操業・勤務を実施しています。

このたび、部品の供給や従業員の通勤などの見通しが進展したため、9月10日より、宇品第1工場(広島県広島市南区)、宇品第2工場(同)、防府第1工場(山口県防府市)、防府第2工場(同)において、生産体制を災害発生前の水準に戻し、通常操業に復帰します。

通常操業にあたっては、引き続き、行政や地域などによる支援活動を妨げることをしないよう交通網への負担を最小限にとどめる通勤・物流を徹底します。これからも、復旧・復興を最優先に、地域の皆さまやお取引先さまなどと連携して継続的に取り組んでいきます。

今後もマツダは、地元の企業として、一日も早い復旧・復興に貢献する取り組みを推進していくとともに、被災地域への物資の提供や人的支援などを行っていきます。

【平成 30 年 7 月豪雨発生以降の工場操業計画の推移】

工場	操業中止	操業再開		残業再開		通常操業
		昼勤	夜勤	昼勤	夜勤	
宇品第1工場	7月9日 ~11日	7月12日	7月23日	8月20日 ^{*2}	9月3日	9月10日
宇品第2工場			7月12日		8月27日	
防府第1工場			- ^{*1}		9月3日 ^{*1}	
防府第2工場						

*1 8月20日に2直に移行

*2 8月20日は定時退社日のため実質は翌21日より実施

<ご参考>

【これまでに実施した主な支援活動】（2018年8月29日時点）

人材の支援：

- 被災地域に医療支援^{*3}、現場作業支援^{*4}、事務作業支援^{*5}など、のべ1,729人^{*6}が支援活動に参加しました。

物資の支援：

- 被災地域やボランティア支援で、土のう袋(2,950袋)、飲料水など(25,617L)、軍手・手袋(1,764セット)、マスク(1,688枚)、タオル(4,840枚)、雑巾(436枚)などを提供しています。
- 被災地域のご要望にお応えし、社用車(のべ12台)を貸し出しています。
- 被災地域に、復旧活動用のトラック(10台)を8月に寄贈しました。

施設の支援：

- 鯛尾トレーニングセンター(安芸郡坂町)を災害ボランティアの宿泊施設として8月1日から30日まで開放しています。

義援金：

- 合計で1億円(広島県8,000万円、日本赤十字社2,000万円)を寄付^{*7}しました。
- 本社ロビー(広島県安芸郡府中町)にて、たる募金を7月26日から8月31日まで実施しています。

以上

*3 マツダ病院の医師・看護師・保健師などを実施(のべ165人)

*4 屋内外の土砂・がれきなどの搬出・清掃・片付けなどを実施(のべ489人)

*5 ボランティアセンターなど施設の業務サポート・希望される物資や支援等のヒアリングなど実施(のべ57人)

*6 災害ボランティアに伴うハートフル休暇取得者数(のべ863人)およびマツダ親和会による無給災害ボランティア(のべ155人)を含む

*7 2018年7月12日発表(<http://www2.mazda.com/ja/publicity/release/2018/201807/180712a.pdf>)